

## 6 門川町総合文化会館

市民プロを巻き込んだ文化の  
土壌づくり

### 1. ホールの概要

- 開館年： 1991年  
運営母体： 財団法人門川ふるさと文化財団  
都市人口： 1万9,500人
- 施設全体の延床面積： 2,691㎡
- 大ホール： 692席  
(リハ-サル室・練習室：併設の門川  
勤労者総合福祉センター会議  
室、教養文化室等の利用可)
- 管理時間： 9:00～22:00  
休館日： 火曜、年末年始
- 運営スタッフ総数： 6名  
企画系スタッフ数： 0名  
芸術普及担当者： 兼務  
(企画系スタッフ数、芸術普及担当者数は内数)
- 所在地：  
〒889-0611 宮崎県東臼杵郡門川町大字  
門川尾末1140-8  
tel. 0982-63-0002  
fax. 0982-63-5048

### 2. ホールの特色、事業概要

- 目的：優れた芸術文化に触れ、交流する場を提供し、教養文化の向上を図るとともに、住みよい地域づくりに資するために設置。
- 自主事業数：12本(1999年度)。
- 主な自主事業(後述の芸術普及活動を除く)：
  - C-WAVE が贈るふるさとの歌と産業まつり「韓国の舞踊・国楽と九州民謡の夕べ」
  - ふるさとの歌と産業まつり「第11回県北民謡選手権大会」
  - C-WAVE が贈る 山崎哲 作・演出 二人芝居「四季 夏」
  - 「優秀映画上演会」

- 「いきいきまちフェスティバル」
- 夏休スペシャルワークショップ 劇団かかし座「みんなで影絵あそび」  
等

- ホール稼働率：大ホール：19%
- 自主事業予算：1,695万円  
芸術普及予算：132万円  
(上記自主事業予算の内数)

### 3. 芸術普及活動導入の背景、経緯

- この施設は、文化会館と勤労者総合福祉センター(体育室・多目的ホール、視聴覚室、教養文化室等を持つ雇用能力開発機構の研修および体育施設)が併設されており、財団法人門川ふるさと文化財団が委託を受けて管理・運営している。
- 財団法人門川ふるさと文化財団は、門川町教育委員会が管轄する財団。社会教育への貢献も設置目的の一つに含まれており、教育委員会と連携して社会教育を担うといった位置づけから芸術普及活動に積極的に取り組んでいる。
- 財団職員はすべてプロパー。
- 社会教育への貢献の意味あいから、従来の生涯学習の分野を含む、「余暇を楽しむ」という性格の事業が中心。

### 4. 芸術普及活動の内容と運営

- ◎ カルチャークリエイティブスクール
- 余暇を講座で活かしながら学ぶうちに趣味の領域を広げ、芸術性も深めてもらうことを目的に、地域のアーティストや専門家を講師に迎えて開講している講座。市民から要望のある講座を3年間財団主催で開講し、4年目で市民の自主講座として独立することを目標としている。

カルチャークリエイティブスクール  
練習風景  
左:「楽しい琴教室」  
右:「ギター教室」



- 受講料はあえて無料にせず、講師料等を運営費として受講者が負担することを原則としている。2000年度は、「たのしい琴教室」、「入門和楽器教室」、「入門小倉百人一首」、「アマチュアバンドリズムクリニック」、「舞台音響照明教室」(\*表参照)、「ギター教室」、「ヴァイオリン教室」、「ニコニコ童謡クラブ」等、計16の講座が開講されてい

「大人のためのピアノ教室」、「押し花教室」は、すでに一人歩きを始めており、これが理想形。

- 社会教育課でも、同じく生涯学習という位置づけでシルバーカレッジや英会話などの講座を設けているが、カルチャークリエイティブスクールは多少専門的なものという位置づけ。

#### ◎ 主な芸術普及事業の概要

事業の名称(開始年度)	事業の内容(実績は1999年度)、課題や今後の展望				
プチ・ミュージックホール 西門川小・中学校音楽鑑賞教室 (1999年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通事情や学校規模等から身近に鑑賞機会を得ることが容易ではない地域の子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供するアウトリーチプログラム。1999年度は、西門川小・中学校の共有の体育館で実施した。</li> <li>● カルチャークリエイティブスクールの講師でヴァイオリニストの永野真一氏の理解と協力により実現、今後もカルチャークリエイティブスクールの講師にお願いし、継続事業としたい。</li> <li>● 主催は財団と門川町教育委員会</li> </ul>				
	対象	参加者数	実施頻度	参加料	予算規模
	学校・一般市民	約100名	年1回	300円	10万円
夏休み ワークショップスペシャル あつまれ演劇なかまたち (1999年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 演劇に対する理解や興味を深めてもらうとともに、長期的な視点での演劇愛好者の底辺拡大を図るプログラム。</li> <li>● 都城市に本拠地を置き活動する市民劇団「こぶく劇場」の永山智行氏を講師に迎えて、子どもからお年寄りまで楽しめるワークショップを実施。</li> <li>● 今後、長期的な取組みを進めるとともに、コミュニケーションに不安を持つ人を対象とした事業への展開も検討中。また、将来的には、地域住民参加型のオリジナルの演劇公演の実施も視野に入れている。</li> </ul>				
	対象	参加者数	実施頻度	参加料	予算規模
	一般市民	20名	年1回	¥500	10万円
カルチャークリエイティブスクール 舞台音響照明講座 (1999年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 舞台技術者不足により、経験の浅い学生アルバイトのスタッフも見かけるようになったことから、舞台技術者養成による人的資源の活用のための事業をカルチャークリエイティブスクールの一講座として開設。</li> <li>● ホールの音響照明機器を使って、基本操作、安全管理、舞台設備について学習する。</li> <li>● 安全管理の面から、危険性の高い吊物設備について、音響・照明の各協会が実施しているような講習会の開催と認定資格証の発行が必要。</li> <li>● 舞台設備の改修、予算措置等について、他ホールの事例、情報収集が必要。技術者の養成についてホール職員がもっと議論していくべき。</li> </ul>				
	対象	参加者数	実施頻度	参加料	予算規模
	一般市民	8名	月2~3回程度	¥1,000(月額)	10万円

\*1: C-WAVE は東九州(大分県、宮崎県、鹿児島県)の10つの文化会館が、地方における文化振興のため、ネットワーク化による公演の低料金化、地方の特色の重視・伝統芸能の支援等を行うネットワーク協議会、「文化(Culture)を創造(Creation)し、伝達(Communication)する、うねる波(Wave)となる」から C-WAVE と名づけられた。

● カルチャークリエイティブスクール以外に、以下の既存生涯学習事業の周辺のプログラムを実施している(1999年度)。

- 「アマチュアバンドリズムクリニック」
- 演劇体験教室「集まれ演劇仲間たち」\*  
表参照
- 「門川ミュージックフェスティバル2000」
- 出前コンサート「プチ・ミュージック・ホール」\*表参照

◎ スポーツと芸術・文化による地域づくり

- スポーツは世界共通の人類の文化の一つであり、人間の可能性の極限を追求する営みとして、スポーツ振興基本計画は、その振興促進を従前にもまして国や地方公共団体の責務としている。また、スポーツ振興法第19条の体育指導委員は地域スポーツ振興に多大に貢献している。
- 「文化の違いがわかる子ども」をどうやって育てるか、「地域の特色を活かした文化行政」をいかに進めるかを考えると、体育指導委員と並んで、芸術・文化指導員の存在が必要。
- スポーツ振興基本計画は、2010年までに、全国の各市町村に総合型地域スポーツクラブを、各都道府県に広域スポーツセンターをそれぞれ少なくとも一つは育成し、学校や公共の体育施設の拠点として、地域の誰もがそれぞれのレベルに応じて活動し、ヨーロッパの先進国に習おうとしている。一方、文化行政も、1998年3月に策定された「文化振興マスタープラン～文化立国の実現に向けて～」に基づき、伝統的な文化を踏まえ、地域の経験者等を活用して、心豊かな社会の実現に努めたいものである。
- スポーツは健康管理という側面が入ってくるので、行政としても予算をかけやすい。文化もまったく同じ考え方で進めるべき。
- すでにカルチャークリエイティブスクールの「ニコニコ童謡クラブ」では、準備体操を取り入れて

いる。スポーツと文化の連携は、子どものための事業が取り入れやすい。

◎ 芸術・文化交流推進委員会の設置

- 門川町では、1999年12月から独自に会館と市民のパイプ役となる「芸術文化交流推進委員」を設置し、活動をスタートさせた。
- 「芸術文化交流推進委員」は、カルチャークリエイティブスクールの講師の他、ボランティア組織「てげてげ倶楽部」のメンバー等から構成される。
- コンサートや公演といった鑑賞型事業に出演するアーティストが、カルチャークリエイティブスクールの講師をしているケースが多く、講座型事業と鑑賞型事業の連携役も担っている。
- 推進委員の位置づけは、熱意を持って主体的に活動する「ボランティア」。定員は10名、年齢層は20代、30代の若手が中心。任期は3年だが、継続してもらいたいと思っている。
- この制度の導入には、地元のアーティストを掘り起こし、かつ、地元で専門分野で食べていけるようにしたいという将来展望もある。
- 門川町では、1996年から地域で音楽を教える個人有志(公立学校の音楽教師は除く)で「音楽指導者の会」を組織しており、その活動が軌道にのっていることも芸術・文化交流推進委員の追い風となった。

◎ C-WAVE(\*1)企画によるアウトリーチ活動

- 1997年、C-WAVE と東京カンマーアンサンブルとの共同企画・製作による「楽しい音楽会」のアウトリーチプログラムとして、西之表市の老人保健施設、串間市の小学校、築島分校の3ヶ所で、コントラバス奏者とピオラ奏者による音楽会を行った。
- 「楽しい音楽会」では、子どもが多少うるさいくらいで演奏ができないようでは日本にクラシックは



普及しないと考え、未就学児も入場可能とし、子どもにもわかりやすい曲目を組んでいる。現在は、4歳以上であれば入場可能としている。

- こういった普及プログラムの実施にあたっては、アーティストの理解が不可欠である。

#### ◎ ボランティア組織「てげてげ倶楽部」との連携

- 「てげてげ倶楽部」は、平成4年に発足した会館の運営に協力する支援団体で、大道具の搬入・搬出、駐車場や場内整理、チケットもぎり、アナウンスまで、公演に関わる裏方すべてを取り仕切っているボランティアグループ。
- 現在のメンバーは約45名、会社員、公務員、音楽指導者、農業などさまざまなメンバーが集まっている。事業のスケジュールが決まると、調整係が裏方に関するすべての手配を行うなど、当日の作業は非常にスムーズに運ばれる。
- 県内には照明、音響といった技術者が少なく、基本的部分を自前でカバーしたほうが安上がりで効率的なため、カルチャークリエイティブスクールの「舞台音響照明教室」で指導をするほか、別途トレーニングを行い、「てげてげ倶楽部」のメンバーが担当することもある。
- アーティストからも、「てげてげ倶楽部」の評判は非常に良い。
- 門川は「てげてげ倶楽部」のほか、福祉ボランティアも盛んで、2000年11月には、「宮崎県ボランティアフェスティバル in のべおか」に参加、「てげてげ倶楽部」の活動を報告し、県内ボランティア組織との交流を図った。

#### ◎ 学校との連携

- 学校との連携については、2002年の文部省の指導要領の改訂がひとつの目標。学校の先生もまだ具体的なことについてはピンときていない点が多い。まずは、芸術・文化交流推進委員会の委員長で民謡・尺八の専門家が、授業として日本

の伝統楽器を教える時間を設けるような提案を行いながら、学校との連携のきっかけづくりをしたい。

- 演劇に興味を持つ若者を育てていかなければ、県北での演劇はどんどん衰退してしまうという危機感から、宮崎県北の高校演劇部の合同合宿を会館で行うアイデアがある。
- 中・高校生の場合は、学校の先生の役割が大きいので、ワークショップ「あつまれ演劇なかまたち」では、高校の先生を通じて参加する生徒を募った。

### 5. 芸術普及活動の効果、今後の課題と展望

#### ◎ 芸術普及活動の実施に伴う効果

- この10年間の活動で、門川町は音楽の盛んな町としてFMラジオや新聞等で紹介されるようになり、町民にもそういった意識が芽生えている。
- 従来職員だけで行っていた企画会議に、芸術・文化交流推進委員や「てげてげ倶楽部」のメンバーが参画することで、日常的に事業が動くようになってきた。
- 「てげてげ倶楽部」のメンバーが会館に普段着で出入りすることで、会館の雰囲気住民に非常に身近なものになった。職員の側も、普段はなるべくノーネクタイにするなど、町民が気軽に立ち寄れる雰囲気をつくるようにしている。

#### ◎ 課題と今後の展望

- 会館相互のネットワークの希望が多くなってきた。これは、従来の貸館運営から地域の住民ニーズに根ざしたプログラムづくりに向けて、ホールの意識が変わってきているということだろう。
- 一方で、門川町総合文化会館では、今後いかに連携を卒業し、単独でいかにプログラムを企画、運営していくかが課題となってきた。

- 
- 地域で芽生えてきた特色ある活動のきざしを定着、発展させるためには、今後、さらに地域住民との協働による長期的な取組みと人材の育成が極めて重要。
  - 人材育成の観点から、「芸術・文化交流推進委員」には、地域の中から文化活動の活性化を推進し、情報収集・発信の「つなげ役」としての活躍が期待される。